

霧島市個人情報保護条例（平成17年霧島市条例第11号）の一部を改正する条例案（改正後条文の解説）

改正後	番号法関連 条番号	改正の目的	解説
<p>霧島市個人情報保護条例</p> <p style="text-align: right;">平成17年11月 7 日 条例第11号</p> <p>目次</p> <p>第1章 総則（第1条—第5条）</p> <p>第2章 実施機関が取り扱う個人情報の保護</p> <p> 第1節 個人情報の取扱いにおける原則（第6条—第13条）</p> <p> 第2節 個人情報取扱事務の登録等（第14条）</p> <p> 第3節 保有個人情報の開示（第15条—第29条）</p> <p> 第4節 保有個人情報の訂正（第30条—第37条）</p> <p> 第5節 保有個人情報の利用停止（第38条—第43条）</p> <p> 第6節 救済措置（第44条—第46条）</p> <p>第3章 霧島市個人情報保護審議会（第47条—第53条）</p> <p>第4章 雑則（第54条—第59条）</p> <p>第5章 罰則（第60条—第64条）</p> <p>附則</p> <p> 第1章 総則</p> <p> （目的）</p> <p>第1条 この条例は、個人情報の適正な取扱いに関し必要な事項を定め、本市の実施機関が保有する自己を本人とする個人情報の開示、訂正及び利用停止を求める個人の権利を保障することにより、個人の権利利益を保護し、もって基本的人権の擁護及び市民に信頼される公正な市政の推進に資することを目的とする。</p> <p> （定義）</p> <p>第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。</p> <p>（1） 個人情報 生存する個人に関する情報であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することがで</p>			

<p>きるもの（他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）をいう。</p> <p>(2) 実施機関 市長（水道事業管理者の権限を行う市長を含む。）、消防局長、教育委員会、選挙管理委員会、監査委員、農業委員会、固定資産評価審査委員会、公平委員会及び議会をいう。</p> <p>(3) 保有個人情報 実施機関の職員が職務上作成し、又は取得した個人情報であって、当該実施機関の職員が組織的に利用するものとして、当該実施機関が保有しているものをいう。ただし、公文書（霧島市情報公開条例（平成17年霧島市条例第10号）第2条第2項に規定する公文書をいう。以下同じ。）に記録されているものに限る。</p> <p>(4) 個人情報ファイル 一定の事務の目的を達成するために体系的に構成された個人情報の集合物であって、個人の氏名、生年月日その他の記述等により特定の保有個人情報を容易に検索することができる状態で公文書に記録されたものをいう。</p>	法第31条	定義の追加	<p>必要な保護措置のための条例改正は、『特定個人情報』と『情報提供等記録』を対象としているため、特定個人情報と情報提供等記録の定義を追加する必要がある。</p> <p>改正案では、番号法上の規定を引用する。</p> <p>このうち、平成27年10月5日から施行する部分の改正において『特定個人情報』の定義を盛り込む。</p>
<p><u>(5) 特定個人情報 行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成25年法律第27号。以下「番号法」という。）第2条第8項に規定する特定個人情報をいう。</u></p>	法第31条	定義の追加	<p>必要な保護措置のための条例改正は、『特定個人情報』と『情報提供等記録』を対象としているため、特定個人情報と情報提供等記録の定義を追加する必要がある。</p> <p>改正案では、番号法上の規定を引用する。</p> <p>このうち、『特定個人情報』の定義を追加する改正は、平成27年10月5日から施行する部分の改正に盛り込んだ。</p> <p>『情報提供等記録』の定義を追加する改正は、情報提供等記録を保有する時期を平成29年と予定しているため、平成29年から施行する部分の改正規定に盛り込むこととする。</p>
<p><u>(6) 情報提供等記録 保有特定個人情報のうち、番号法第23条第1項及び第2項の規定により記録された特定個人情報をいう。</u></p>	法第31条	定義の追加	<p>本市条例は、他の市町村同様「個人情報」のほかに「保有個人情報」の定義を設けており、開示請求等の各種規制対象を「個人情報」ではなく、「保有個人情報」としている。保有個人情報に該当するためには、個人情報の要件を満たすほかに、「職務上作成し、又は取得したこと」「実施機関の職員が組織的に</p>
<p><u>(7) 保有特定個人情報 実施機関の職員が職務上作成し、又は取得した特定個人情報であって、当該実施機関の職員が組織的に利用するものとして、当該実施機関が保有しているものをいう。ただし、公文書に記録されているものに限る。</u></p>			

(8) 特定個人情報ファイル 番号法第2条第5項に規定する個人番号をその内容に含む個人情報ファイルをいう。

(9) 本人 個人情報によって識別される特定の個人をいう。

(10) 事業者 法人その他の団体（国、独立行政法人等（独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成13年法律第140号）第2条第1項に規定する独立行政法人等をいう。以下同じ。））、地方公共団体及び地方独立行政法人（地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第2条第1項に規定する地方独立行政法人をいう。以下同じ。）を除く。）又は事業を営む個人をいう。

（実施機関の責務）

第3条 実施機関は、この条例の目的を達成するため、個人情報の保護に関し必要な施策を講じなければならない。

（事業者の責務）

第4条 事業者は、個人情報を取り扱うときは、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないよう、その適正な取扱いに努めなければならない。

（市民の責務）

第5条 市民は、個人情報の保護の重要性を認識し、自己の個人情報の適切な管理に努めるとともに、他人の個人情報の取扱いに当たっては、その権利利益を侵害することのないよう努めなければならない。

第2章 実施機関が取り扱う個人情報の保護

第1節 個人情報の取扱いにおける原則

（個人情報の収集の制限）

第6条 実施機関は、個人情報を収集するときは、あらかじめ当該個人情報を取り扱う目的を明らかにし、当該目的を達成するために必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により収集しなければならない。

2 実施機関は、個人情報を収集するときは、本人から直接収集しなければ

法第31条

定義の追加

利用するものであること」「公文書に記録されているもの」の3要件が加わり、個人情報よりも対象が限定される。

改正例では、特定個人情報が新たに保有個人情報に加わることから、「保有特定個人情報」の規定を設けた。

第4項に規定している個人情報ファイルに番号法で規定する個人番号（マイナンバー）が加わった個人情報のファイルのこと。

ならない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、この限りでない。

- (1) 本人の同意があるとき。
- (2) 法令又は条例（以下「法令等」という。）の規定に基づくとき。
- (3) 出版、報道等により公にされているものから収集するとき。
- (4) 個人の生命、身体又は財産を保護するため、緊急かつやむを得ないと認められるとき。
- (5) 所在不明、心神喪失等の事由により、本人から収集することができない場合であって、本人の権利利益を不当に侵害するおそれがないと認められるとき。
- (6) 他の実施機関から提供を受けて収集するとき。
- (7) 前各号に掲げる場合のほか、霧島市個人情報保護審議会の意見を聴いた上で、本人から収集することにより、個人情報を取り扱う事務の目的の達成に支障が生じ、又は円滑な実施が困難になるおそれがあると認めるときその他本人以外の者から収集することに相当の理由があると実施機関が認めて収集するとき。

3 実施機関は、思想、信条、信教及び犯罪歴に関する個人情報並びに社会的差別の原因となるおそれのある個人情報を収集してはならない。ただし、法令等の規定に基づくとき、又は霧島市個人情報保護審議会の意見を聴いた上で、個人情報を取り扱う事務の目的を達成するために必要があると実施機関が認めるときは、この限りでない。

（利用目的の明示）

第7条 実施機関は、本人から直接書面（電子的方式、磁気的方式その他の人の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録（第26条第1項及び第55条において「電磁的記録」という。）を含む。）に記録された当該本人の個人情報を取得するときは、次に掲げる場合を除き、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示しなければならない。

- (1) 人の生命、身体又は財産の保護のために緊急に必要があるとき。
- (2) 利用目的を本人に明示することにより、本人又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがあるとき。
- (3) 利用目的を本人に明示することにより、市の機関、国の機関、独立行政法人等、他の地方公共団体及び地方独立行政法人が行う事務又は事業の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき。

(4) 取得の状況からみて利用目的が明らかであると認められるとき。

(正確性の確保)

第8条 実施機関は、利用目的の達成に必要な範囲内で、保有個人情報が過去又は現在の事実と合致するよう努めなければならない。

(安全確保の措置)

第9条 実施機関は、保有個人情報の漏えい、滅失又は毀損の防止その他の保有個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。

2 前項の規定は、実施機関から個人情報の取扱いの委託を受けた者が受託した業務を行う場合及び指定管理者（地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項に規定する指定管理者をいう。次条及び第60条において同じ。）が公の施設の管理を行う場合において個人情報を取り扱うときについて準用する。

3 保有する必要のなくなった個人情報は、確実に、かつ、速やかに廃棄し、又は消去するものとする。ただし、歴史的資料として保存する必要があるものは、この限りでない。

(従事者の義務)

第10条 個人情報の取扱いに従事する実施機関の職員若しくは職員であった者又は前条第2項に規定する受託業務に従事している者若しくは指定管理者が行う公の施設の管理に関する業務に従事している者若しくは従事していた者は、その業務に関して知り得た個人情報の内容を正当な理由なく他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。

(保有特定個人情報以外の保有個人情報の利用及び提供の制限)

第11条 実施機関は、法令等に基づく場合を除き、利用目的以外の目的のために保有個人情報（保有特定個人情報を除く。以下この条において同じ。）を自ら利用し、又は提供してはならない。

2 前項の規定にかかわらず、実施機関は、次の各号のいずれかに該当すると認める場合は、利用目的以外の目的のために保有個人情報を自ら利用

法第29条

保有特定個人情報の
目的外利用及び提供
の制限を別に規定す
るための除外措置

原則として地方公共団体は、人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、本人の同意があるか又は本人の同意を得ることが困難であるとき以外は、『特定個人情報』の目的外利用は認められない。

一方、従来どおり『保有個人情報』については、法令等に基づく場合は、目的外の利用又は提供が認められる。

この取扱いの差異を条例に区分して規定する必要があるため、第11条を従来どおりの目的外利用・目的外提供の制限から『保有特定個人情報』を除き、次条に11条の2を新設して『保有特定個人情報』の目的外利用を制限した。

し、又は提供することができる。ただし、保有個人情報を利用目的以外の目的のために自ら利用し、又は提供することによって、本人又は第三者の権利利益を不当に侵害するおそれがあると認められるときは、この限りでない。

- (1) 本人の同意があるとき、又は本人に提供するとき。
- (2) 実施機関の内部で利用する場合であって、法令等の定める事務又は業務の遂行に必要な限度で利用し、かつ、利用することに相当の理由があると認められるとき。
- (3) 当該実施機関以外の市の機関、国の機関、独立行政法人等、他の地方公共団体及び地方独立行政法人に保有個人情報を提供する場合において、保有個人情報の提供を受ける者が、法令等の定める事務又は業務の遂行に必要な限度で提供に係る個人情報を利用し、かつ、当該個人情報を利用することについて相当な理由のあるとき。
- (4) 出版、報道等により公にされたものを利用し、又は提供するとき。
- (5) 個人の生命、身体又は財産の保護のため、緊急かつやむを得ないと認めて利用し、又は提供するとき。
- (6) 専ら統計の作成又は学術研究の目的のために保有個人情報を提供するとき。
- (7) 本人以外の者に提供することが明らかに本人の利益になるとき、その他保有個人情報を提供することについて特別の理由のあるとき。
- (8) 前各号に掲げる場合のほか、霧島市個人情報保護審議会の意見を聴いた上で、公益上の必要その他相当の理由があると実施機関が認めて利用し、又は提供するとき。

3 前項の規定は、保有個人情報の利用又は提供を制限する他の法令等の規定の適用を妨げるものではない。

4 実施機関は、個人の権利利益を保護するため特に必要があると認めるときは、保有個人情報の利用目的以外の目的のための実施機関の内部における利用を特定の部局又は機関に限るものとする。

(保有特定個人情報の利用の制限)

第11条の2 実施機関は、利用目的以外の目的のために保有特定個人情報を自ら利用してはならない。

2 前項の規定にかかわらず、実施機関は、人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、本人の同意があり、又は本人の同意を

法第29条

保有特定個人情報の
目的外利用の制限を
規定

【特定個人情報に係る改正】

原則として地方公共団体は、人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、本人の同意があるか又は本人の同意を得ることが困難であるとき以外、保有特定個人情報の目的外利用は認められない。

<p><u>得ることが困難であるときは、利用目的以外の目的のために保有特定個人情報（情報提供等記録を除く。以下この項及び次項において同じ。）を自ら利用することができる。ただし、保有特定個人情報を利用目的以外の目的のために自ら利用することによって、本人又は第三者の権利利益を不当に侵害するおそれがあると認められるときは、この限りでない。</u></p> <p><u>3 実施機関は、個人の権利利益を保護するため特に必要があると認めるときは、保有特定個人情報の利用目的以外の目的のための当該実施機関の内部における利用を特定の部局又は組織に限るものとする。</u></p>	<p>法第30条</p>	<p>情報提供等記録の目的外利用の禁止</p>	<p>一方で、保有個人情報については、法令等に基づく場合は、目的外の利用又は提供が認められる。（第11条） この点を条例に区分して規定する必要があるため、新たに11条の2を新設して保有特定個人情報の目的外利用の制限を規定した。 【情報提供等記録に係る改正】 第11条の2は、保有特定個人情報の利用の制限を規定したものであり、第2項は、一定の場合には、目的外利用が許容される旨を定めたものである。 しかし、情報提供等記録については、目的外利用がそもそも想定されていないことから、目的外利用を一切禁止する。 庁内で情報提供等記録を共有することも認めない。</p>
<p>(保有特定個人情報の提供の制限)</p> <p><u>第11条の3 実施機関は、番号法第19条各号のいずれかに該当する場合を除き、保有特定個人情報を提供してはならない。</u></p>	<p>法第29条</p>	<p>保有特定個人情報の外部提供の制限</p>	<p>保有特定個人情報の提供は、条例の規定によらずに、目的外であっても目的内であっても、番号法第19条各号に該当する場合を除き禁止している。 特定個人情報の提供の制限は、番号法第19条に服することの確認規定として本条を規定する。</p>
<p>(保有個人情報の提供を受ける者に対する措置要求)</p> <p>第12条 実施機関は、<u>第11条第2項第3号</u>から第8号までの規定により保有個人情報を提供する場合において、必要があると認めるときは、保有個人情報の提供を受ける者に対し、提供に係る個人情報について、その利用の目的若しくは方法の制限その他必要な制限を付し、又はその漏えいの防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講ずることを求めるものとする。</p> <p>(オンライン結合の処理制限)</p> <p>第13条 実施機関は、オンライン結合（通信回線を用いて実施機関が管理する電子計算機と実施機関以外のものが管理する電子計算機を結合し、実施機関の管理する個人情報を実施機関以外のものが随時入手し、蓄積し、及び提供し得る状態にする方法をいう。）による個人情報を提供してはならない。ただし、法令等の規定に基づくとき、又は実施機関が霧島市個人情報保護審議会の意見を聴いた上で、当該オンライン結合を行うことに公益上の必要があり、かつ、個人の権利利益を侵害するおそれがないと認めるときは、この限りでない。</p> <p>第2節 個人情報取扱事務の登録等</p>	<p>法第29条</p>	<p>条項ずれの改正</p>	<p>第11条の2及び第11条の3を加えたことに伴う引用条項ずれを整理するため改正するものである。</p>

第14条 実施機関は、個人情報を取り扱う事務であって、個人情報ファイルを使用するもの（以下「個人情報取扱事務」という。）について、次に掲げる事項を記載した個人情報取扱事務登録簿を備え、一般の閲覧に供しなければならない。

- (1) 個人情報取扱事務の名称
- (2) 個人情報取扱事務の目的及び根拠
- (3) 個人情報取扱事務を所掌する組織の名称
- (4) 個人情報の対象者の範囲
- (5) 個人情報の記録項目
- (6) 個人情報の収集先及び収集方法
- (7) 第11条第2項の規定により、個人情報の利用又は提供を経常的に行う場合は、その利用の範囲又は提供先
- (8) 前条のオンライン結合により個人情報を提供する場合は、その旨
- (9) その他実施機関が定める事項

2 実施機関は、個人情報取扱事務を新たに開始しようとするときは、あらかじめ、当該個人情報取扱事務について個人情報取扱事務登録簿に登録しなければならない。登録した事項を変更しようとするときも、同様とする。

3 実施機関は、個人情報取扱事務を廃止したときは、速やかに当該個人情報取扱事務の登録を抹消しなければならない。

4 実施機関は、前2項の規定による登録、変更又は抹消をしたときは、遅滞なく、その旨を霧島市個人情報保護審議会に報告しなければならない。この場合において、霧島市個人情報保護審議会は、当該事項について意見を述べることができる。

5 前各項の規定は、次に掲げる個人情報取扱事務については、適用しない。

- (1) 市の職員又は職員であった者に係る個人情報取扱事務であって、専らその人事、給与若しくは福利厚生等に関する事項又はこれらに準ずる事項（実施機関が行う職員の採用試験に関する個人情報取扱事務を含む。）を取り扱うもの
- (2) 一般に入手し得る刊行物等に係る個人情報を取り扱う事務
- (3) 前2号に掲げる事務のほか、実施機関の定める事務

第3節 保有個人情報の開示

（開示請求権）

第15条 何人も、この条例の定めるところにより、実施機関に対し、当該実施機関の保有する自己を本人とする保有個人情報の開示を請求することができる。

2 未成年者又は成年被後見人の法定代理人（保有特定個人情報にあっては、未成年者若しくは成年被後見人の法定代理人又は本人の委任による代理人。以下「代理人」と総称する。）は、本人に代わって前項の規定による開示の請求（以下「開示請求」という。）をすることができる。ただし、本人が15歳以上の未成年者の場合において、当該本人が反対の意思表示をしたときは、この限りでない。

（開示請求の手続）

第16条 開示請求は、次に掲げる事項を記載した書面（以下「開示請求書」という。）を実施機関に提出してしなければならない。

- (1) 開示請求をする者の氏名及び住所又は居所
- (2) 代理人が本人に代わって開示請求をする場合は、本人の氏名及び住所又は居所

(3) 開示請求に係る保有個人情報が記録されている公文書の名称その他の開示請求に係る保有個人情報を特定するに足りる事項

2 前項の場合において、開示請求をする者は、実施機関の定めるところにより、開示請求に係る保有個人情報の本人であること（前条第2項の規定による開示請求にあっては、開示請求に係る保有個人情報の本人の代理人であること）を示す書類を提示し、又は提出しなければならない。

3 実施機関は、開示請求書に形式上の不備があると認めるときは、開示請求をした者（以下「開示請求者」という。）に対し、相当の期間を定めて、その補正を求めることができる。この場合において、実施機関は、開示請求者に対し、補正の参考となる情報を提供するよう努めなければならない。

法第29条

保有特定個人情報の開示の請求者の範囲を拡大

保有個人情報の開示請求、訂正請求、利用停止請求は、本人のほか、法定代理人について認められている。

これに対して番号法は、個人情報に関する本人参加を容易にするため、本人の委任を受けた代理人（任意代理人）による請求も認めている。

以下の条文において、保有特定個人情報の各種請求に関して「法定代理人」と表現した箇所は、「代理人」に改める。

法第29条

保有特定個人情報の開示の請求者の範囲を拡大

保有個人情報に含まれる保有特定個人情報も開示請求の対象となる。

番号法は、個人情報に関する本人参加を容易にするため、本人の委任を受けた代理人（任意代理人）による請求も認めていることから、第15条の改正に即し「法定代理人」を「代理人」に改める。

法第29条

保有特定個人情報の開示の請求者の範囲を拡大

保有個人情報に含まれる保有特定個人情報も開示請求の対象となる。

番号法は、個人情報に関する本人参加を容易にするため、本人の委任を受けた代理人（任意代理人）による請求も認めていることから、第15条の改正に即し「法定代理人」を「代理人」に改める。

(保有個人情報の開示義務)

第17条 実施機関は、開示請求があったときは、開示請求に係る保有個人情報に次の各号に掲げる情報（以下「不開示情報」という。）のいずれかが含まれている場合を除き、開示請求者に対し、当該保有個人情報を開示しなければならない。

(1) 開示請求者（第15条第2項の規定により代理人が本人に代わって開示請求をする場合にあつては、当該本人をいう。次号及び第3号、次条第2項並びに第25条第1項において同じ。）の生命、健康、生活又は財産を害するおそれがある情報

(2) 開示請求者以外の個人に関する情報（事業を営む個人の当該事業に関する情報を除く。）であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により開示請求者以外の特定の個人を識別することができるもの（他の情報と容易に照合することにより、開示請求者以外の特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）又は開示請求者以外の特定の個人を識別することはできないが、開示することにより、なお開示請求者以外の個人の権利利益を害するおそれがあるもの。ただし、次に掲げる情報を除く。

ア 法令等の規定により又は慣行として開示請求者が知ることができ、又は知ることが予定されている情報

イ 人の生命、健康、生活又は財産を保護するため、開示することが必要であると認められる情報

ウ 当該個人が公務員等である場合において、当該情報とその職務の遂行に係る情報であるときは、当該情報のうち、当該公務員等の職及び当該職務遂行の内容に係る部分

(3) 法人その他の団体（以下この号において「法人等」という。）に関する情報又は開示請求者以外の事業を営む個人の当該事業に関する情報であつて、次に掲げるもの。ただし、人の生命、健康、生活又は財産を保護するため、開示することが必要であると認められる情報を除く。

ア 開示することにより、当該法人等又は当該個人の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるもの

イ 実施機関の要請を受けて、開示しないと条件で任意に提供された

法第29条

保有特定個人情報の開示の請求者の範囲を拡大

保有個人情報に含まれる保有特定個人情報も開示請求の対象となる。

番号法は、個人情報に関する本人参加を容易にするため、本人の委任を受けた代理人（任意代理人）による請求も認めていることから、第15条の改正に即し「法定代理人」を「代理人」に改める。

ものであって、法人等又は個人における通例として開示しないこととされているものその他の当該条件を付することが当該情報の性質、当時の状況等に照らして合理的であると認められるもの

- (4) 法令等の規定により又は実施機関が法律上従う義務を有する主務大臣その他国の機関の指示により、開示することができない情報
- (5) 開示をすることにより、個人の生命、身体、財産等の保護、犯罪の予防、犯罪の捜査その他の公共の安全及び秩序の維持に支障を及ぼすおそれがあると認められる情報
- (6) 市の機関、国の機関、独立行政法人等、他の地方公共団体及び地方独立行政法人の内部又は相互間における審議、検討又は協議に関する情報であって、開示することにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ、不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれ又は特定の者に不当に利益を与え、若しくは不利益を及ぼすおそれがあるもの
- (7) 市の機関、国の機関、独立行政法人等、他の地方公共団体及び地方独立行政法人が行う事務又は事業に関する情報であって、開示することにより、次に掲げるおそれその他当該事務又は事業の性質上、当該事務又は事業の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあるもの
 - ア 監査、検査、取締り、試験又は租税の賦課若しくは徴収に係る事務に関し、正確な事実の把握を困難にするおそれ又は違法若しくは不当な行為を容易にし、若しくはその発見を困難にするおそれ
 - イ 契約、交渉又は争訟に係る事務に関し、市、国、独立行政法人等、他の地方公共団体及び地方独立行政法人の財産上の利益又は当事者としての地位を不当に害するおそれ
 - ウ 調査研究に係る事務に関し、その公正かつ能率的な遂行を不当に阻害するおそれ
 - エ 人事管理に係る事務に関し、公正かつ円滑な人事の確保に支障を及ぼすおそれ
 - オ 市、国若しくは他の地方公共団体が経営する企業又は独立行政法人等若しくは地方独立行政法人に係る事業に関し、その企業経営上の正当な利益を害するおそれ
 - カ 個人に対する評価、診断、選考、指導等に係る事務に関し、当該事務の実施の目的が損なわれ、又はこれらの事務の公正若しくは円滑な

執行に支障を及ぼすおそれ

(部分開示)

第18条 実施機関は、開示請求に係る保有個人情報に不開示情報が含まれている場合において、不開示情報に該当する部分を容易に区分して除くことができるときは、開示請求者に対し、当該部分を除いた部分につき開示しなければならない。ただし、当該部分を除いた部分に有意の情報が記録されていないと認められるときは、この限りでない。

2 開示請求に係る保有個人情報に前条第2号の情報（開示請求者以外の特定の個人を識別することができるものに限る。）が含まれている場合において、当該情報のうち、氏名、生年月日その他の開示請求者以外の特定の個人を識別することができることとなる記述等の部分を除くことにより、開示しても、開示請求者以外の個人の権利利益が害されるおそれがないと認められるときは、当該部分を除いた部分は、同号の情報に含まれないものとみなして、前項の規定を適用する。

(裁量的開示)

第19条 実施機関は、開示請求に係る保有個人情報に不開示情報が含まれている場合であっても、個人の権利利益を保護するため特に必要があると認めるときは、開示請求者に対し、当該保有個人情報を開示することができる。

(保有個人情報の存否に関する情報)

第20条 開示請求に対し、当該開示請求に係る保有個人情報が存在しているか否かを答えるだけで、不開示情報を開示することとなるときは、実施機関は、当該保有個人情報の存否を明らかにしないで、当該開示請求を拒否することができる。

(開示請求に対する措置)

第21条 実施機関は、開示請求に係る保有個人情報の全部又は一部を開示するときは、その旨の決定をし、開示請求者に対し、その旨、開示する保有個人情報の利用目的及び開示の実施に関し実施機関の定める事項を書面により通知しなければならない。ただし、第7条第2号又は第3号に該当する場合における当該利用目的については、この限りでない。

2 実施機関は、開示請求に係る保有個人情報の全部を開示しないとき（前条の規定により開示請求を拒否するとき及び開示請求に係る保有個人情報を保有していないときを含む。）は、開示をしない旨の決定をし、開示

請求者に対し、その旨を書面により通知しなければならない。

3 実施機関は、前2項の決定（開示請求に係る保有個人情報の全部を開示する旨の決定を除く。）をしたときは、当該各項に規定する書面にその理由を記載しなければならない。この場合において、当該保有個人情報の全部又は一部が第17条各号に該当しなくなる期日をあらかじめ明示することができるときは、その期日を付記しなければならない。

（開示決定等の期限）

第22条 前条第1項及び第2項の決定（以下「開示決定等」という。）は、開示請求があった日の翌日から起算して15日以内にしなければならない。ただし、第16条第3項の規定により補正を求めた場合にあっては、当該補正に要した日数は、当該期間に算入しない。

2 前項の規定にかかわらず、実施機関は、事務処理上の困難その他正当な理由があるときは、同項に規定する期間を30日以内に限り延長することができる。この場合において、実施機関は、開示請求者に対し、遅滞なく、延長後の期間及び延長の理由を書面により通知しなければならない。

（開示決定等の期限の特例）

第23条 開示請求に係る保有個人情報が著しく大量であるため、開示請求があった日から45日以内にその全てについて開示決定等を行うことにより事務の遂行に著しい支障が生ずるおそれがある場合には、前条の規定にかかわらず、実施機関は、開示請求に係る保有個人情報のうちの相当の部分につき当該期間内に開示決定等をし、残りの保有個人情報については相当の期間内に開示決定等をすれば足りる。この場合において、実施機関は、同条第1項に規定する期間内に、開示請求者に対し、次に掲げる事項を書面により通知しなければならない。

(1) 本条の規定を適用する旨及びその理由

(2) 残りの保有個人情報について開示決定等を行う期限

（事案の移送）

第24条 実施機関は、開示請求に係る保有個人情報（情報提供等記録を除く。）が他の実施機関から提供されたものであるとき、その他他の実施機関において開示決定等を行うことにつき正当な理由があるときは、当該他の実施機関と協議の上、当該他の実施機関に対し、事案を移送することができる。この場合においては、移送をした実施機関は、開示請求者に対し、事案を移送した旨を書面により通知しなければならない。

第30条

情報提供等記録の事案の移送の禁止

情報提供等記録は、情報提供を実施したことの通信の記録であり、他の部署や実施機関に提供するものではない。

よって、開示請求等を受けた部署のみが保有する情報であることから、移送の対象外である。

2 前項の規定により事案が移送されたときは、移送を受けた実施機関において、当該開示請求についての開示決定等を行わなければならない。この場合において、移送をした実施機関が移送前にした行為は、移送を受けた実施機関がしたものみなす。

3 前項の場合において、移送を受けた実施機関が第21条第1項の決定（以下「開示決定」という。）をしたときは、当該実施機関は、開示の実施を行わなければならない。この場合において、移送をした実施機関は、当該開示の実施に必要な協力をしなければならない。

（第三者に対する意見書提出の機会の付与等）

第25条 開示請求に係る保有個人情報に市、国、独立行政法人等、他の地方公共団体、地方独立行政法人及び開示請求者以外の者（以下この条、第45条及び第46条において「第三者」という。）に関する情報が含まれているときは、実施機関は、開示決定等をするに当たって、当該情報に係る第三者に対し、当該第三者に関する情報の内容その他実施機関で定める事項を通知して、意見書を提出する機会を与えることができる。

2 実施機関は、次の各号のいずれかに該当する場合は、開示決定に先立ち、当該第三者に対し、開示請求に係る当該第三者に関する情報の内容その他実施機関が定める事項を書面により通知して、意見書を提出する機会を与えなければならない。ただし、当該第三者の所在が判明しない場合は、この限りでない。

(1) 第三者に関する情報が含まれている保有個人情報を開示しようとする場合であって、当該第三者に関する情報が第17条第2号イ又は同条第3号ただし書に規定する情報に該当すると認められるとき。

(2) 第三者に関する情報が含まれている保有個人情報を第19条の規定により開示しようとするとき。

3 実施機関は、前2項の規定により意見書の提出の機会を与えられた第三者が当該第三者に関する情報の開示に反対の意思を表示した意見書を提出した場合において、開示決定をするときは、開示決定の日と開示を実施する日との間に少なくとも2週間を置かなければならない。この場合において、実施機関は、開示決定後直ちに、当該意見書（第44条第2号及び第45条第3号において「反対意見書」という。）を提出した第三者に対し、開示決定をした旨及びその理由並びに開示を実施する日を書面により通知しなければならない。

(開示の実施)

第26条 保有個人情報の開示は、当該保有個人情報が、文書又は図画に記録されているときは閲覧又は写しの交付により、電磁的記録に記録されているときはその種別、情報化の進展状況等を勘案して実施機関が定める方法により行う。ただし、閲覧の方法による保有個人情報の開示にあつては、実施機関は、当該保有個人情報が記録されている文書又は図画の保存に支障を生ずるおそれがあると認めるとき、その他正当な理由があるときは、その写しにより、これを行うことができる。

2 開示決定に基づき保有個人情報の開示を受ける者は、自己が当該開示請求に係る個人情報の本人又は当該開示請求をすることができる代理人であることを証明するために必要な書類その他実施機関の定めるものを提示し、又は提出しなければならない。

3 開示決定に基づき保有個人情報の開示を受ける者は、実施機関で定めるところにより、当該開示決定をした実施機関に対し、その求める開示の実施の方法その他の実施機関の定める事項を申し出なければならない。

4 前項の規定による申出は、第21条第1項の規定による通知があつた日から30日以内になしなければならない。ただし、当該期間内に当該申出をすることができないことにつき正当な理由があるときは、この限りでない。

(開示請求等の特例)

第27条 実施機関があらかじめ定めた保有個人情報について本人が開示請求をしようとするときは、第16条第1項の規定にかかわらず、口頭により行うことができる。

2 前項の規定により開示請求をしようとする者は、第16条第2項の規定にかかわらず、実施機関に対し、自己が当該開示請求に係る個人情報の本人であることを証明するために必要な書類で実施機関の定めるものを提示しなければならない。

3 実施機関は、第1項の規定により開示請求があつたときは、第22条、第23条及び前条第1項の規定にかかわらず、実施機関が定める方法により直ちに開示しなければならない。

(他の法令等による開示の実施との調整)

第28条 実施機関は、他の法令等の規定により、開示請求者に対し開示請求

法第29条

保有特定個人情報の開示の請求者の範囲を拡大

保有個人情報に含まれる保有特定個人情報も開示請求の対象となる。

番号法は、個人情報に関する本人参加を容易にするため、本人の委任を受けた代理人（任意代理人）による請求も認めていることから、第15条の改正に即し「法定代理人」を「代理人」に改める。

法第29条

保有特定個人情報の

番号法は、マイ・ポータルによる開示の実施も重ねて行うた

に係る保有個人情報（保有特定個人情報を除く。）が第26条第1項本文に規定する方法と同一の方法で開示することとされている場合（開示の期間が定められている場合にあつては、当該期間内に限る。）には、同項本文の規定にかかわらず、当該保有個人情報については、当該同一の方法による開示を行わない。ただし、当該他の法令等の規定に一定の場合には開示をしない旨の定めがあるときは、この限りでない。

2 他の法令等の規定に定める開示の方法が縦覧であるときは、当該縦覧を第26条第1項本文の閲覧とみなして、前項の規定を適用する。

（費用負担）

第29条 個人情報の開示請求に係る手数料は、無料とする。

2 開示請求者が保有個人情報の写しの交付を受ける場合においては、当該写しの作成に要する費用を負担しなければならない。ただし、実施機関が必要と認めた場合、実施機関の定めるところにより、費用を免除することができる。

第4節 保有個人情報の訂正

（訂正請求権）

第30条 何人も、自己を本人とする次に掲げる保有個人情報の内容が事実でないと料するとき、この条例の定めるところにより、当該保有個人情報を保有する実施機関に対し、当該保有個人情報の訂正（追加又は削除を含む。以下同じ。）を請求することができる。ただし、当該保有個人情報の訂正に関して他の法令等の規定により特別の手續が定められているときは、この限りでない。

(1) 開示決定に基づき開示を受けた保有個人情報

(2) 開示決定に係る保有個人情報であつて、第28条第1項の他の法令等の規定により開示を受けたもの

2 代理人は、本人に代わつて前項の規定による訂正の請求（以下「訂正請求」という。）をすることができる。ただし、本人が15歳以上の未成年者の場合において、当該本人が反対の意思表示をしたときは、この限りでない。

3 訂正請求は、保有個人情報の開示を受けた日の翌日から起算して90日以内にしなければならない。

（訂正請求の手續）

開示の実施に関し他制度との調整を除外するため

め、番号法第29条では、行政機関個人情報保護法第25条を適用しないようにし、マイ・ポータルによる開示制度と行政機関個人情報保護法による開示制度の双方による開示をできるようにしている。

当市条例においても、保有特定個人情報に限り双方の開示を認めるため、保有個人情報から「保有特定個人情報」を除く規定を置く。

法第29条

保有特定個人情報の訂正請求者の範囲の拡大

番号法は、個人情報に関する本人参加を容易にするため、本人の委任を受けた代理人（任意代理人）による請求も認めていることから、第15条の改正に即して「法定代理人」を「代理人」に改める。

第31条 訂正請求は、次に掲げる事項を記載した書面（以下「訂正請求書」という。）を実施機関に提出してしなければならない。

- (1) 訂正請求をする者の氏名及び住所又は居所
- (2) **代理人**が本人に代わって訂正請求をする場合は、本人の氏名及び住所又は居所
- (3) 訂正請求に係る保有個人情報の開示を受けた日その他当該保有個人情報特定するに足りる事項
- (4) 訂正請求の趣旨及び理由

2 訂正請求をする者は、実施機関に対し、訂正を求める内容が事実と合致することを疎明する書類又は資料を提示し、又は提出しなければならない。

3 第1項の場合において、訂正請求をする者は、訂正請求に係る保有個人情報の本人であること（前条第2項の規定による訂正請求にあつては、訂正請求に係る保有個人情報の本人の**代理人**であること）を示す書類を提示し、又は提出しなければならない。

4 実施機関は、訂正請求書に形式上の不備があると認めるときは、訂正請求をした者（以下「訂正請求者」という。）に対し、相当の期間を定めて、その補正を求めることができる。

（保有個人情報の訂正義務）

第32条 実施機関は、訂正請求があつた場合において、当該訂正請求に理由があると認めるときは、当該訂正請求に係る保有個人情報の利用目的の達成に必要な範囲内で、当該保有個人情報の訂正をしなければならない。ただし、当該訂正請求に係る保有個人情報について実施機関に訂正の権限がないとき、その他訂正をしないことにつき正当な理由があるときは、この限りでない。

（訂正請求に対する措置）

第33条 実施機関は、訂正請求に係る保有個人情報の訂正をするときは、その旨の決定をし、訂正請求者に対し、その旨を書面により通知しなければならない。

2 実施機関は、訂正請求に係る保有個人情報の訂正をしないときは、その旨の決定をし、訂正請求者に対し、その旨を書面により通知しなければ

法第29条

保有特定個人情報の訂正請求者の範囲の拡大

番号法は、個人情報に関する本人参加を容易にするため、本人の委任を受けた代理人（任意代理人）による請求も認めていることから、第15条の改正に即して「法定代理人」を「代理人」に改める。

法第29条

保有特定個人情報の訂正請求者の範囲の拡大

番号法は、個人情報に関する本人参加を容易にするため、本人の委任を受けた代理人（任意代理人）による請求も認めていることから、第15条の改正に即して「法定代理人」を「代理人」に改める。

らない。

3 実施機関は、前項の決定をしたときは、同項に規定する書面にその理由を記載しなければならない。

(訂正決定等の期限)

第34条 前条各項の決定（以下「訂正決定等」という。）は、訂正請求があった日の翌日から起算して15日以内にしなければならない。ただし、第31条第4項の規定により補正を求めた場合にあつては、当該補正に要した日数は、当該期間に算入しない。

2 前項の規定にかかわらず、実施機関は、事務処理上の困難その他正当な理由があるときは、同項に規定する期間を30日以内に限り延長することができる。この場合において、実施機関は、訂正請求者に対し、遅滞なく、延長後の期間及び延長の理由を書面により通知しなければならない。

(訂正決定等の期限の特例)

第35条 実施機関は、訂正決定等に特に長期間を要すると認めるときは、前条の規定にかかわらず、相当の期間内に訂正決定等をすれば足りる。この場合において、実施機関は、同条第1項に規定する期間内に、訂正請求者に対し、次に掲げる事項を書面により通知しなければならない。

(1) 本条の規定を適用する旨及びその理由

(2) 訂正決定等をする期限

(事案の移送)

第36条 実施機関は、訂正請求に係る保有個人情報（[情報等提供記録を除く。](#)）が第24条第3項の規定による開示に係るものであるとき、その他他の実施機関において訂正決定等を行うことにつき正当な理由があるときは、当該他の実施機関と協議の上、当該他の実施機関に対し、事案を移送することができる。この場合においては、移送をした実施機関は、訂正請求者に対し、事案を移送した旨を書面により通知しなければならない。

2 前項の規定により事案が移送されたときは、移送を受けた実施機関において、当該訂正請求についての訂正決定等を行しなければならない。この場合において、移送をした実施機関が移送前にした行為は、移送を受けた実施機関がしたものみなす。

3 前項の場合において、移送を受けた実施機関が訂正決定等をしたときは、当該実施機関は、当該訂正請求者及び移送をした実施機関に対し、その内容を書面により通知しなければならない。

第30条

情報提供等記録の事案の移送の禁止

情報提供等記録は、情報提供を実施したことの通信の記録であり、他の部署や実施機関に提供するものではない。

よって、開示請求等を受けた部署のみが保有する情報であることから、移送の対象外である。

4 前項の場合において、移送を受けた実施機関が第33条第1項の決定（以下「訂正決定」という。）をしたときは、移送をした実施機関は、当該訂正決定に基づき訂正の実施をしなければならない。

（保有個人情報の提供先への通知）

第37条 実施機関は、訂正決定に基づく保有個人情報の訂正の実施をした場合において、必要があると認めるときは、当該保有個人情報の提供先（当該保有個人情報が情報提供等記録である場合にあっては、総務大臣及び番号法第19条第7号に規定する情報照会者又は情報提供者（当該訂正に係る情報提供等記録に記録される者であって、当該実施機関以外のものに限る。））に対し、遅滞なく、その旨を書面により通知するものとする。

第5節 保有個人情報の利用停止

（利用停止請求権）

第38条 何人も、自己を本人とする第30条第1項各号に掲げる保有個人情報（保有特定個人情報を除く。）が次の各号のいずれかに該当すると思料する場合は、この条例の定めるところにより、当該保有個人情報を保有する実施機関に対し、当該各号に定める措置を請求することができる。ただし、当該保有個人情報の利用の停止、消去又は提供の停止（以下「利用停止」という。）に関して他の法令等の規定により特別の手續が定められているときは、この限りでない。

(1) 当該保有個人情報を保有する実施機関により適法に取得されたものでないとき、第6条第2項の規定に違反して保有されているとき、又は第11条第1項及び第2項の規定に違反して利用されているとき 当該保有個人情報の利用の停止又は消去

(2) 第11条第1項及び第2項の規定に違反して提供されているとき 当該保有個人情報の提供の停止

2 何人も、自己を本人とする保有特定個人情報（情報提供等記録を除く。）が次の各号のいずれかに該当すると思料するときは、この条例の定めるところにより、当該保有特定個人情報を保有する実施機関に対し、当該各号

法第30条

情報提供等記録の訂正の通知先の追加

情報提供等記録は、機関間における特定個人情報のやりとりを記録したものであり、情報照会者・情報提供者・情報提供ネットワークシステム（設置管理者：総務大臣）の3か所で記録・保管されるものである。

情報提供等記録に訂正が生じた場合は、必要に応じて、3か所で認識を共有しなければならないと考えられるため、訂正を実施した際に必要があるときは、情報照会者は、情報提供者・総務大臣に、情報提供者は、情報照会者・総務大臣に通知しなければならない。

法第29条

保有特定個人情報の利用停止の請求を別に規定するために除外

第38条では、個人情報の適正な取扱いを確保するため、保有個人情報が適正に取得されたものでないとき、目的内保有・利用制限の規定に違反しているとき又は提供制限の規定に違反しているときに、利用停止請求が行えることを保障している。

保有特定個人情報についても同様に利用停止の請求権が認められるので、次項において、新たに規定を追加する。

第1項については、保有個人情報に関する従来の規定を残すため、保有特定個人情報の利用停止請求権を除外するものである。

法第29条

保有特定個人情報の利用停止の請求の規定を追加

【特定個人情報に係る改正】

第1号は、利用の停止又は消去を請求できる場合を以下の項目とする旨を規定

<p><u>に定める措置を請求することができる。ただし、当該保有特定個人情報の利用停止に関して法令等の規定により特別の手續が定められているときは、この限りでない。</u></p> <p><u>(1) 当該保有特定個人情報を保有する実施機関により適法に取得されたものでないとき、当該保有特定個人情報の利用の目的の達成に必要な範囲を超えて保有されているとき、第11条の2の規定に違反して利用されているとき、番号法第20条の規定に違反して収集され、若しくは保管されているとき、又は番号法第28条の規定に違反して作成された特定個人情報ファイルに記録されているとき 当該保有特定個人情報の利用の停止又は消去</u></p>			<p>①適法に取得されたものでないとき ②利用目的の範囲を超えて保有しているとき（行政機関個人情報保護法第3条2項違反） ③目的外利用の禁止・制限に違反しているとき（条例第11条の2違反） ④収集・保管の制限に違反しているとき（番号法第20条違反） ⑤違反して作成された特定個人情報ファイルに記録されているとき（番号法第28条違反）</p> <p>【情報提供等記録に係る改正】 情報提供等記録については、情報提供ネットワークシステムにおいて自動保存されるものであり、適法に取得されたものでないときや利用制限・提供制限の規定に違反しているときが想定されない。 よって、保有特定個人情報の利用停止請求から情報提供等記録を除外する。</p>
<p><u>(2) 第11条の3の規定に違反して提供されているとき 当該保有特定個人情報の提供の停止</u></p>	<p>法第29条</p>	<p>保有特定個人情報の外部提供の制限</p>	<p>第2号は、提供の停止を規定 ⑥提供の禁止・制限に違反しているとき（条例第11条の3・番号法第19条違反）P</p>
<p>3 <u>代理人</u>は、本人に代わって前2項の規定による利用停止の請求（以下「利用停止請求」という。）をすることができる。ただし、本人が15歳以上の未成年者の場合において、当該本人が反対の意思表示をしたときは、この限りでない。</p>	<p>法第29条</p>	<p>保有特定個人情報の利用停止請求者の範囲の拡大</p>	<p>保有個人情報に含まれる保有特定個人情報も開示請求の対象となる。 番号法は、個人情報に関する本人参加を容易にするため、本人の委任を受けた代理人（任意代理人）による請求も認めていることから、第15条の改正に即して「法定代理人」を「代理人」に改める。</p>
<p>4 利用停止請求は、保有個人情報の開示を受けた日の翌日から起算して90日以内にしなければならない。 （利用停止請求の手續）</p> <p>第39条 利用停止請求は、次に掲げる事項を記載した書面（以下「利用停止請求書」という。）を実施機関に提出してしなければならない。</p> <p>(1) 利用停止請求をする者の氏名及び住所又は居所 (2) <u>代理人</u>が本人に代わって利用停止請求をする場合は、本人の氏名及び住所又は居所</p>	<p>法第29条</p>	<p>保有特定個人情報の利用停止請求者の範</p>	<p>保有個人情報に含まれる保有特定個人情報も開示請求の対象となる。</p>

<p>(3) 利用停止請求に係る保有個人情報の開示を受けた日その他当該保有個人情報を特定するに足りる事項</p> <p>(4) 利用停止請求の趣旨及び理由</p> <p>2 前項の場合において、利用停止請求をする者は、実施機関が定めるところにより、利用停止請求に係る保有個人情報の本人であること（前条第3項の規定による利用停止請求にあっては、利用停止請求に係る保有個人情報の本人の代理人であること）を示す書類を提示し、又は提出しなければならない。</p> <p>3 実施機関は、利用停止請求書に形式上の不備があると認めるときは、利用停止請求をした者（以下「利用停止請求者」という。）に対し、相当の期間を定めて、その補正を求めることができる。</p> <p>（保有個人情報の利用停止義務）</p> <p>第40条 実施機関は、利用停止請求があった場合において、当該利用停止請求に理由があると認めるときは、当該実施機関における個人情報の適正な取扱いを確保するために必要な限度で、当該利用停止請求に係る保有個人情報の利用停止をしなければならない。ただし、当該保有個人情報の利用停止をすることにより、当該保有個人情報の利用目的に係る事務の性質上、当該事務の適正な遂行に著しい支障を及ぼすおそれがあると認められるときは、この限りでない。</p> <p>（利用停止請求に対する措置）</p> <p>第41条 実施機関は、利用停止請求に係る保有個人情報の利用停止をするときは、その旨の決定をし、利用停止請求者に対し、その旨を書面により通知しなければならない。</p> <p>2 実施機関は、利用停止請求に係る保有個人情報の利用停止をしないときは、その旨の決定をし、利用停止請求者に対し、その旨を書面により通知しなければならない。</p> <p>3 実施機関は、前項の決定をしたときは、同項の書面にその理由を記載し</p>	<p>法第29条</p>	<p>囲の拡大</p> <p>保有特定個人情報の利用停止請求者の範囲の拡大</p> <p>条項ずれの改正</p>	<p>番号法は、個人情報に関する本人参加を容易にするため、本人の委任を受けた代理人（任意代理人）による請求も認めていることから、第15条の改正に即して「法定代理人」を「代理人」に改める。</p> <p>保有個人情報に含まれる保有特定個人情報も開示請求の対象となる。</p> <p>番号法は、個人情報に関する本人参加を容易にするため、本人の委任を受けた代理人（任意代理人）による請求も認めていることから、第15条の改正に即して「法定代理人」を「代理人」に改める。</p> <p>また、引用する条項も増えることから改正の必要が生じる。</p>
---	--------------	--	---

なければならない。

(利用停止決定等の期限)

第42条 前条各項の決定（以下「利用停止決定等」という。）は、利用停止請求があった日の翌日から起算して15日以内にしなければならない。ただし、第39条第3項の規定により補正を求めた場合にあつては、当該補正に要した日数は、当該期間に算入しない。

2 前項の規定にかかわらず、実施機関は、事務処理上の困難その他正当な理由があるときは、同項に規定する期間を30日以内に限り延長することができる。この場合において、実施機関は、利用停止請求者に対し、遅滞なく、延長後の期間及び延長の理由を書面により通知しなければならない。

(利用停止決定等の期限の特例)

第43条 実施機関は、利用停止決定等に特に長期間を要すると認めるときは、前条の規定にかかわらず、相当の期間内に利用停止決定等をすれば足りる。この場合において、実施機関は、同条第1項に規定する期間内に、利用停止請求者に対し、次に掲げる事項を書面により通知しなければならない。

- (1) この条の規定を適用する旨及びその理由
- (2) 利用停止決定等をする期限

第6節 救済措置

(審査会への諮問)

第44条 開示決定等、訂正決定等又は利用停止決定等について行政不服審査法（昭和37年法律第160号）による不服申立てがあつたときは、当該不服申立てに対する決定をすべき実施機関は、次の各号のいずれかに該当する場合を除き、霧島市情報公開・個人情報保護審査会に諮問して、当該不服申立てに係る決定又は裁決を行わなければならない。

- (1) 不服申立てが不適法であり、却下するとき。
- (2) 決定又は裁決で、不服申立てに係る開示決定等（開示請求に係る保有個人情報の全部を開示する旨の決定を除く。以下この号及び第46条において同じ。）を取り消し、又は変更し、当該不服申立てに係る保有個人情報の全部を開示することとするとき。ただし、当該開示決定等について反対意見書が提出されているときを除く。
- (3) 決定又は裁決で、不服申立てに係る訂正決定等（訂正請求の全部を容認して訂正をする旨の決定を除く。）を取り消し、又は変更し、当該

不服申立てに係る訂正請求の全部を容認して訂正をすることとするとき。

- (4) 決定又は裁決で、不服申立てに係る利用停止決定等（利用停止請求の全部を容認して利用停止をする旨の決定を除く。）を取り消し、又は変更し、当該不服申立てに係る利用停止請求の全部を容認して利用停止をすることとするとき。

（諮問をした旨の通知）

第45条 前条の規定により諮問をした実施機関は、次に掲げる者に対し、諮問をした旨を通知しなければならない。

- (1) 不服申立人及び参加人
- (2) 開示請求者、訂正請求者又は利用停止請求者（これらの者が不服申立人又は参加人である場合を除く。）
- (3) 当該不服申立てに係る開示決定等について反対意見書を提出した第三者（当該第三者が不服申立人又は参加人である場合を除く。）

（第三者からの不服申立てを棄却する場合等における手続等）

第46条 第25条第3項の規定は、次の各号のいずれかに該当する決定又は裁決をする場合について準用する。

- (1) 開示決定に対する第三者からの不服申立てを却下し、又は棄却する決定
- (2) 不服申立てに係る開示決定等を変更し、当該開示決定等に係る保有個人情報を開示する旨の決定（第三者である参加人が当該第三者に関する情報の開示に反対の意思を表示している場合に限る。）

第3章 霧島市個人情報保護審議会

（設置）

第47条 第6条第2項第7号及び第3項ただし書並びに第11条第2項第8号、第13条及び第14条第4項の規定によりその権限に属することとされた事項を行うほか、実施機関の諮問に応じて個人情報保護制度に係る重要な事項を調査審議するため、霧島市個人情報保護審議会（以下「審議会」という。）を置く。

2 審議会は、前項の規定による調査審議のほか、この条例の実施に関し実施機関に意見を述べることができる。

（組織）

第48条 審議会は、委員10人以内で組織する。

(委員)

第49条 委員は、学識経験者及び住民のうちから市長が委嘱する。

- 2 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員は、その職務を遂行するに当たっては、公正不偏の立場で調査し、及び審議しなければならない。
- 5 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。
- 6 委員は、在任中、政党その他の政治的団体の役員となり、又は積極的に政治運動をしてはならない。

(会長)

第50条 審議会に会長1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。
- 3 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第51条 審議会の会議は、会長が招集する。

- 2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第52条 審議会の庶務は、総務部総務課において処理する。

(審議会への委任)

第53条 この章に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、審議会が定める。

第4章 雑則

(適用除外)

第54条 第2章の規定は、法令の規定により、行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第58号）の規定を適用しないこととさ

れている保有個人情報については、適用しない。

2 この条例は、図書館その他これらに類する施設において、一般の利用に供することを目的として保管している個人情報については、適用しない。

(苦情処理)

第55条 実施機関は、当該実施機関における個人情報の取扱いに関する苦情の適切かつ迅速な処理に努めなければならない。

(運用状況の公表)

第56条 市長は、毎年1回各実施機関におけるこの条例の運用状況を取りまとめ、公表しなければならない。

(出資法人)

第57条 市が資本金、基本金その他これらに準ずるものを補助及び出資している法人であって、規則で定めるものは、この条例の趣旨にのっとり、当該法人の保有する個人情報の保護に関し、市の施策に準じた保護措置を講ずるよう努めなければならない。

(他の地方公共団体又は国との協力)

第58条 市長は、この条例に基づく施策を実施するに当たり、個人情報の取扱いに伴う個人の権利利益を保護するため必要があると認めるときは、他の地方公共団体又は国の機関に対して、協力を求めることができる。

2 市長は、個人情報の取扱いに係る個人の権利利益の保護を目的として他の地方公共団体又は国が行う施策に協力することを求められたときは、その求めに応じるよう努めなければならない。

(委任)

第59条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、実施機関が別に定める。

第5章 罰則

第60条 実施機関の職員若しくは職員であった者又は第9条第2項に規定する受託業務若しくは指定管理者が行う公の施設の管理に関する業務に従事している者若しくは従事していた者が、正当な理由がないのに、個人の秘密に属する事項が記録された個人情報ファイル（その全部又は一部を複製し、又は加工したものを含む。）を提供したときは、2年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処する。

第61条 前条に規定する者が、その業務に関して知り得た保有個人情報を自

己若しくは第三者の不正な利益を図る目的で提供し、又は盗用したときは、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。

第62条 実施機関の職員がその職権を濫用して、専らその職務の用以外の用に供する目的で個人の秘密に属する事項が記録された文書、図画又は電磁的記録を収集したときは、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。

第63条 第49条第5項の規定に違反して秘密を漏らした者は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。

第64条 偽りその他不正の手段により、開示決定に基づく保有個人情報の開示を受けた者は、5万円以下の過料に処する。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成17年11月7日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の日の前日までに、合併前の溝辺町個人情報保護条例(平成17年溝辺町条例第4号)、牧園町個人情報保護条例(平成13年牧園町条例第17号)、霧島町個人情報保護条例(平成14年霧島町条例第8号)、隼人町個人情報保護条例(平成15年隼人町条例第18号)若しくは福山町個人情報保護条例(平成16年福山町条例第7号)又は国分市電子計算組織に係る個人情報の保護に関する条例(平成9年国分市条例第9号)若しくは横川町電子計算機処理に係る個人情報保護に関する条例(平成9年横川町条例第11号)の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、それぞれこの条例の相当規定によりなされたものとみなす。

3 この条例の施行の際、現に実施機関が保有している個人情報取扱事務についての第14条第2項の規定の適用については、同項中「新たに開始しようとするときは、あらかじめ」を「現に行っているときは、この条例の施行後遅滞なく」と読み替えるものとする。

4 この条例の施行の日以後最初に開かれる霧島市個人情報保護審議会の会議は、第51条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。